

平成28年5月5日(木)

老球の細道233

## コーチの3つの哲学

会津バスケットボール協会 室井 富仁

今月から「バスケットボール・コーチングスクール」がスタートする。実績もない、名もない私と坂下ミニバスケットコーチの二瓶誠二氏で主催する私的なバスケットボールコーチ塾である。目的は、バスケットボールの素晴らしさを指導できるコーチの育成である。

現在思うところはコーチの哲学の問題である。コーチの神様ジョン・ウッデンは「コーチという仕事を全うするには哲学的であるべきで、自分の哲学を持たなければならない」と言っていた。また、元拓殖大学バスケットボール監督の森下義仁氏は「コーチには明確にしなければならない3つの哲学がある」と話していた。優れたコーチになるには、バスケットボールの知識、技術以前にコーチ自身の色々な哲学を確立しなければならない。第1回目のスクールでもこのことを重点的に話していきたい。

なぜコーチは哲学を持たなければならないのか。『スポーツ選手よ強くなるには哲学を持って』(山海堂)によると「結果を出し続ける人たちや精神的に安定している人は、自分なりの哲学、つまり自分なりの競技を続ける意味を持っている。勝つ経験や挫折経験で見出したもので、精神的強さと競技に向かうエネルギー(やる気)を生み出している」。

このことは選手だけではなくコーチも同じである。なぜバスケットボールをする(コーチする)のか、そこにどんな意味があるのか、自分の人生にとってバスケットボールをすることはどんな意味を持つのか。この疑問にきちんと自分なりの回答を持つことが必要である。それら(哲学)を明確にすることによって、勝ったり負けたり of 興奮、感情的な状況下でも揺るがない姿勢で物事を決断でき、選手のために献身的な姿勢で日々有意義に指導できるようになるのではないだろうか。そのためにも「3つの哲学」が必要となる。

### 1・人生哲学

社会人として生きていくための拠り所とする考え方、方針。人生いかに生きるべきか。何のためにバスケットボールのコーチをするのか。不本意な社会にそまらない、流されない、自分を見失わないで有意義に人生を送るために必要。

### 2・コーチング哲学

コーチングに対する考え方、態度に反映する行動規範。コーチングの目的の優先順位などに反映する。バスケットを好きにさせる、技術の向上、勝利、どれを最も重んじるか等。

### 3・バスケットボール哲学

バスケットボールの技術、戦術、指導方法などについての考え方。シュートはワンハンド、マンツーマンディフェンスはボールマンを外に押し出す(ファンディフェンス)等。

コーチングスクール今年で3年目の挑戦になるが、コーチ育成に役立てれば幸いである。

- |                         |                |
|-------------------------|----------------|
| ①5月9日(月)「優れたコーチになるために」  | 【全回共通要項】       |
| ②6月6日(月)「練習計画の立て方」      | ◎時間：19時～21時    |
| ③7月4日(月)「練習ドリルの作り方」     | ◎場所：会津若松市「稽古堂」 |
| ④8月1日(月)「ゲームマネジメント」     | ◎参加費：1回1,000円  |
| ⑤9月5日(月)「コーチのリスクマネジメント」 | ◎連絡先 二瓶誠二      |
| ⑥10月3日(月)「バスケットボールの歴史」  | 090-8251-9657  |